

20123503/A

厚生労働科学研究費補助金

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

OTC医薬品に関わる専門家教育と供給等に
関する調査研究

平成24年度 総括研究報告書

研究代表者 坂巻 弘之

平成25(2013)年 5 月

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
平成 24 年度 総括研究年度終了報告書

OTC 医薬品に関わる専門家教育と供給等に関する調査研究
(H23-医薬-指定-028)

研究代表者 坂巻 弘之 名城大学 薬学部 教授
研究分担者 山村 重雄 城西国際大学薬学部 教授

【研究要旨】

一般用医薬品の購入困難者に対する円滑な一般用医薬品の供給体制の確立は一般用医薬品に関する重要な政策課題である。また、一般用医薬品を合理的、適切に供給するためには、薬剤師が地域の消費者の健康状態や症状を評価し、一般用医薬品による軽医療への介入を行うことが必要である。また、インターネットによる医薬品供給のあり方について諸外国の規制状況について情報を得ることは今後の政策議論において重要である。そこで本研究の第 1 の目的として、離島住民への一般用医薬品の供給体制の現状を明らかにすることとし、第 2 に、諸外国のインターネットを含む医薬品供給に関わる規制、薬剤師教育制度を調査すること、第 3 に、消費者の軽度の身体不調に対して薬剤師がアセスメントするための教育プログラムの作成とその評価を行うことをそれぞれ目的とした。

研究は、鹿児島県の離島部の住民を対象とし、一般用医薬品の実態、副作用等の経験と望ましい一般用医薬品の供給体制についてアンケート調査を行った。また、海外調査は、欧州、カナダを対象国とし、それぞれの一般用医薬品供給規制と薬剤師教育について調査を行った。また、オーストラリアにおける教育プログラムなどを参考に、わが国の薬剤師、薬科大学教員の議論により日本版プログラムを開発し、そのプログラム、教材を用いたワークショップを開催してプログラムの評価を行った。

その結果、島嶼部の一般用医薬品については、配置薬の利用が多く、インターネットや通信販売の利用は、現状ではそれほど多いものではなかった。また、将来的にインターネット通信販売を希望するものも 15.3%であった。インターネットによる医薬品販売は、世界的に規制緩和の方向にある。しかしながら、医薬品によるネット販売に対して、公的・民間のいずれかによりなんらかの規制がとられていることが一般的であることも示された。薬剤師教育プログラムについては、改善の余地はあるものの、概ね、本資材ならびに本資材を用いた軽医療マネジメントの研修プログラムは有用と考えられた。

A. 研究目的

平成 21 年 6 月の改正薬事法施行により、一般用医薬品のリスク分類にもとづく販売方法が整理されたが、一般用医薬品の購入困難者（へき地・離島居住者、要介護者など）に対する円滑な一般用医薬品の供給体制をどのようにすべきかについては、今後の検討課題として残されている。

一方、一般用医薬品を合理的、適切に供給するためには、薬剤師が地域の消費者の健康状態や症状を評価し、一般用医薬品による軽医療への介入を行うことが必要である。そのために薬剤師は一般用医薬品に関わるスキルを身につけるためのトレーニング、教育を行われなければならない。

また、インターネットによる医薬品供給のあり方について諸外国の規制状況について情報を得ることは今後の政策議論において重要である。

そこで本研究の第 1 の目的として、離島住民への一般用医薬品の供給体制の現状を明らかにすることとし、第 2 に、諸外国のインターネットを含む医薬品供給に関わる規制、薬剤師教育制度を調査すること、第 3 に、消費者の軽度の身体不調に対して薬剤師がアセスメントするための教育プログラムの作成とその評価を行うことをそれぞれ目的とした。

B. 研究方法

①離島における一般用医薬品の購入

鹿児島県離島部から人口等をもとに選択した 10 島嶼における 1,000 名を対象とした。対象島の選定は、電話帳に薬局・ドラッグストアのない島を選んだ。アンケート送付と回収は、往復郵送方式とし、

平成 24 年 11 月発送、12 月末日までの変装のものを集計対象とした。

②欧州における医薬品供給規制、薬薬剤師業務と教育

以下をインタビュー調査した。

- ・ロンドン大学薬学部、2 月 23 日および 3 月 13 日
- ・ポルトガル薬局経営者協会、2 月 25 日
- ・ドイツ薬剤師連盟、2 月 26 日
- ・欧州薬剤師グループ、2 月 27 日
- ・イタリア薬局経営者協会およびイタリア薬剤師会、2 月 28 日、3 月 1 日

③カナダの薬剤師職能と薬剤師教育

以下を訪問調査した。

- ・サスカチュワン大学、3 月 7、8 日
- ・アルバータ大学、3 月 11~13 日

④薬剤師の軽医療研修プログラムの作成とその評価

オーストラリアで作成されている研修資料を参考に、領域（症状）を選択した。症状は、頭痛、皮膚症状、消化器（便秘、むねやけ）、およびコミュニケーションとし、各領域について、研究協力者らによる少人数によるグループを作成し、薬局の現場での事例収集なども行い、資料を作成した。また、本事業に関連して「平成 24 年度医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス総合研究事業外国人研究者招へい事業」により招へいしたシドニー大学薬学部講師クレール オライリー（Claire O' Reilly）との意見交換も行って、研修資料のブラッシュアップを行った。作成された資料を用いて実際に研修

を実施した。研修は、協力の得られた薬剤師会において実施し、参加者に対してアンケート調査によって評価を受けた。

C. 研究結果

別紙の通り

D. 考察

①離島における一般用医薬品の購入

平成 24 年中に一般用医薬品を購入したとする者のうち、インターネットで購入したとするものは、購入者のうちの 3.4%、であり、それほど多い割手はなかった。インターネット、通信販売へのニーズについては、希望するものが全体の 15.3% であり、むしろ配置薬への要望が 28.8% と多く、一般用医薬品の供給方法についてはインターネット以外の方法も含めて検討することが必要と思われた。

②欧州における医薬品供給規制、薬剤師業務と教育

インターネットによる医薬品販売は、世界的に規制緩和の方向にある。しかしながら、医薬品によるネット販売に対して、公的・民間のいずれかによりなんらかの規制がとられていることが一般的で、規制の緩い米国でも、薬剤師会によるネット薬局認証システムが存在する。また、多くの国で、ネット販売できる薬局の登録・認証システムがあるとともに、ネット薬局における医薬品使用に関わる安全確保や品質管理の基準を定めている。こうした規制の下でも、海外からの不適切に医薬品を個人輸入する事例は各国で指摘されている。わが国における医薬品のネット販売については、今後薬事法の改

正を含む対応がなされるものと考えられるが、一方で、ネット販売の下での消費者教育のあり方を検討する必要があるものと考えられた。

③カナダの薬剤師職能と薬剤師教育

OTC のために確保されている時間を効率的に使用して、OTC 教育が実施されていた。また、医療器具に対する講義もあり、薬局店頭で経験することが多い医療器具の販売に関する講義・演習が日本ではおそらくほとんど実施されておらず、今後日本にも導入することが必要と思われた。学生に対する教育は、学生の薬学的考え方における成長度や学生のレディネスに合わせて構築されており、これらも日本の OTC 教育に導入することが必要と考えられた。

④薬剤師の軽医療研修プログラムの作成とその評価

軽医療マネジメントにおいて必要とされる、薬剤師のコミュニケーション能力と意思決定能力の向上が期待される。しかしながら、コミュニケーションスキルによる患者からの情報収集と意思決定とは、分離できるものではない。軽医療マネジメントでは、コミュニケーションスキルによる適切な情報収集をもとに意思決定を行うことが重要である。今回作成したプログラムは、改善の余地はあるものの、本資材ならびに本資材を用いた軽医療マネジメントの研修プログラムは概ね有用と考えられた。

E. 結論

島嶼部の一般用医薬品については、配置薬の利用が多く、インターネットや通信販売の利用は、現状ではそれほど多いものではなかった。インターネットによる医薬品販売は、世界的に規制緩和の方向にある。しかしながら、医薬品によるネット販売に対して、公的・民間のいずれかによりなんらかの規制がとられていることが一般的であることも示された。薬剤師教育プログラムについては、改善の余地はあるものの、概ね、本資材ならびに本資材を用いた軽医療マネジメントの研修プログラムは有用と考えられた。

F. 健康危険情報

該当しない

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当しない

研究実施体制

研究代表者 名城大学薬学部 教授 坂巻 弘之

分担研究者 城西国際大学薬学部 教授 山村 重雄

1. 離島における一般用医薬品の購入状況調査

坂巻 弘之 (名城大学薬学部 教授)

調査業務外注 株式会社サーベイリサーチセンター 名古屋営業所

2. 欧州における医薬品供給規制、薬剤師業務と教育

坂巻 弘之 (名城大学薬学部 教授)

研究協力者

小林 大高 (名城大学薬学部)

飯島 康典 (一般社団法人上田薬剤師会)

寺脇 大 (株式会社文寿)

3. カナダの薬剤師職能と薬剤師教育

山村 重雄 (城西国際大学薬学部 教授)

研究協力者

竹平 理恵子 (城西国際大学薬学部)

小澤 実香 (城西国際大学薬学部)

4. 薬剤師の軽医療研修プログラムの作成とその評価

坂巻 弘之 (名城大学薬学部 教授)

山村 重雄 (城西国際大学薬学部 教授)

研究協力者 (50音順)

岡田 浩 (京都医療センター臨床研究センター)

小澤 実香 (城西国際大学薬学部)

久保 博嗣 (唐津東松浦薬剤師会薬局)

小林 大高 (名城大学薬学部)

杉崎 薫 (公益社団法人小田原薬剤師会)

高中 紘一郎 (新潟薬科大学)

竹平 理恵子 (城西国際大学薬学部)

成山 保 (てらわき薬局)

山浦 知之 (山浦堂薬局)

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 総括研究年度終了報告書 | i |
| 研究実施体制 | v |
| 研究結果 | 1 |
| 第1章 離島における一般用医薬品の購入状況調査 | 1 |
| 1. 目 的 | 1 |
| 2. 方 法 | 1 |
| 3. 結 果 | 3 |
| 4. 結 論 | 6 |
| 5. 資 料（調査票） | 13 |
| 第2章 欧州における医薬品供給規制、薬剤師業務と教育 | 19 |
| 1. 目 的 | 19 |
| 2. 方 法 | 19 |
| 3. 結 果 | 20 |
| 4. 結 論 | 31 |
| 5. 資 料（各国資料） | 33 |
| 第3章 カナダの薬剤師職能と薬剤師教育 | 47 |
| 1. 目 的 | 47 |
| 2. 方 法 | 47 |
| 3. 結 果 | 48 |
| 4. 結 論 | 56 |
| 5. 資 料 | 57 |
| 第4章 薬剤師の軽医療研修プログラムの作成とその評価 | 77 |
| 1. 目 的 | 77 |
| 2. 方 法 | 77 |
| 3. 結 果 | 79 |
| 4. 結 論 | 83 |
| 5. 資 料（教材、評価用調査票） | 85 |

第1章 離島における一般用医薬品の購入状況調査

1. 目的

医師の処方なしに使用することができる「一般用医薬品」については、平成 22 年度に薬事法が改正され、副作用リスクの大きい製品については、薬剤師が配置されている薬局・ドラッグストアでなければ売ることができないことになり、原則として、インターネットや通信販売などでの販売はできない。

具体的には、副作用リスクの小さい「クラス 3」に分類される医薬品のみがネット販売ができるが、「クラス 2」に分類される医薬品については、移行措置として、現時点では一部の製品についてネット販売ができるようになってきているが、将来的にこれらのネット販売を認めるかどうかについての議論が行われている。

平成 23 年 7 月 22 日閣議決定「規制・制度改革に係る追加方針」において、以下の 2 点を検討することとなっている。

- ① 一般用医薬品を安全・安心・円滑に供給する観点から、薬剤師等の合理的かつ適切な対面販売の実施状況、円滑供給への寄与度等について検証する。
- ② 安全性を確保する具体的な要件の設定を前提に、第三類医薬品以外の薬局・薬店による郵便等販売、及びその他の工夫も含め、当面の合理的な規制の在り方について検討し、可能な限り、早期に結論を得る。

上記のような背景のもとで、日常生活において外出が困難な生活者や離島などに居住する「購入困難者」がどのように一般用医薬品を購入しているか、一般用医薬品使用によりどのような問題を感じているかなどを調査し、データを得ることは古語の円滑な一般用医薬品供給体制を設計するうえで重要である。

調査は、2 年計画で実施し、平成 23 年度は、要介護者を中心とした外出困難者を対象に調査を実施し、平成 24 年度は、島嶼部（離島等）で生活している住民を対象に調査を行い、今後の一般用医薬品供給の在り方の議論のための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 方法

- ① 実施地域・対象客数：鹿児島県離島部から人口等をもとに選択した以下の島嶼における 1,000 名を対象とした。対象島の選定は、電話帳に薬局・ドラッグストアのない島を選んだ。

表 1 調査対象

| 県名 | 市町村名 | 島名 | 人口 (H17 国勢調査) | 人口割合 | 抽出数 |
|------|-------|-------|------------------|------|-----|
| 鹿児島県 | 長島町 | 獅子島 | 851 | 0.13 | 130 |
| 鹿児島県 | 薩摩川内市 | 上甕島 | 2,750 | 0.42 | 420 |
| 鹿児島県 | 薩摩川内市 | 中甕島 | 347 | 0.05 | 50 |
| 鹿児島県 | 屋久島町 | 口永良部島 | 147 | 0.02 | 20 |
| 鹿児島県 | 三島村 | 硫黄島 | 140 | 0.02 | 20 |
| 鹿児島県 | 三島村 | 黒島 | 239 | 0.04 | 40 |
| 鹿児島県 | 十島村 | 中之島 | 173 | 0.03 | 30 |
| 鹿児島県 | 瀬戸内町 | 加計呂麻島 | 1,547 | 0.24 | 240 |
| 鹿児島県 | 瀬戸内町 | 与路島 | 137 | 0.02 | 20 |
| 鹿児島県 | 瀬戸内町 | 請島 | 161 | 0.03 | 30 |

② アンケート送付と回収方法：往復郵送方式

③ 実施時期：平成 24 年 11 月、回収 12 月末日。

なお、調査依頼状及びアンケート用紙を資料として章末に添付した。

3. 結果

(1) 回収状況と回答者の属性

発送、1,000 件のうち、有効回答 226 件（有効回答率：22.6%）であった。世帯人数は、2 名のものが 50.4%と最も多かった、また島内に薬を売っている店舗はあると回答したものが 121 名あり、店舗として薬局・ドラッグストアとするものが 49 名いた。対象として薬局、ドラッグストアのない島嶼を選択したが、対象地域選択後に薬局、ドラッグストアが設置されたか、あるいは、店舗を薬局等と認識しているものと考えられた。

表 2 問 1：世帯の人数

| 全 体 | 1 人 | 2 人 | 3 人 | 4 人 | 5 人 | 6 人 | 7 人 以上 | 無 回 答 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|-------------|
| 226 | 36 | 114 | 45 | 13 | 9 | 2 | 3 | 4 |
| 100.0 | 15.9 | 50.4 | 19.9 | 5.8 | 4.0 | 0.9 | 1.3 | 1.8 |

表 3 問 2：島内に薬を売っている店の有無

| 全 体 | あ る | な い | 無 回 答 |
|--------|--------|--------|-------------|
| 226 | 121 | 100 | 5 |
| 100.0 | 53.5 | 44.2 | 2.2 |

表 4 問 2－1：店の種類

| 全 体 | 薬 局 ・ ド ラ グ ス ト ア | そ の 他 | 無 回 答 |
|--------|---|-------------|-------------|
| 121 | 49 | 70 | 3 |
| 100.0 | 40.5 | 57.9 | 2.5 |

(2) 一般用医薬品の購入状況

今年（平成 24 年）に一般用医薬品を購入したとする者は全体の 65.9%であった。このうち、島内での購入が 27.5%（購入したことのあるものみの集計、複数回答。以下同じ）であり、島内での購入回数は、1～2 回とするものが多かった（平均 2.1 回）。島外での購入が 73.2%と最も多く、購入回数は、1～3 回であった（平均 3.4 回）。通信販売での購入は 6.0%、購入回数は 4.9 回、インターネットでの購入は、3.4%、購入回数 3.3 回であった。

表 5 問 3：今年になって一般用医薬品の購入の有無

| 全体 | 購入した | 購入して いない | 無回答 |
|--------------|-------------|-------------|----------|
| 226 100.0 | 149 65.9 | 68 30.1 | 9 4.0 |

表 6 問 3-1：購入方法（複数回答）

| 全体 | 島内の薬局・ドラッグストア | 島外の薬局・ドラッグストア | 通信販売 | インターネット販売 | 島内の知人に送ってもらった | 島外の知人に送ってもらった | その他 | 無回答 |
|--------------|---------------|---------------|----------|-----------|---------------|---------------|------------|----------|
| 149 100.0 | 41 27.5 | 109 73.2 | 9 6.0 | 5 3.4 | 2 1.3 | 9 6.0 | 26 17.4 | 1 0.7 |

表 7 問 3-2：購入回数

| | 全体 | 1 回 | 2 回 | 3 回 | 4 回 | 5 回 | 6 回以上 | 無回答 |
|----------------------|--------------|------------|------------|------------|----------|------------|------------|-----------|
| 島内の薬局・ドラッグストアで購入した回数 | 41 100.0 | 16 39.0 | 18 43.9 | 4 9.8 | - - | - - | 1 2.4 | 2 4.9 |
| 島外の薬局・ドラッグストアで購入した回数 | 109 100.0 | 18 16.5 | 26 23.9 | 25 22.9 | 7 6.4 | 13 11.9 | 12 11.0 | 8 7.3 |
| 通信販売で購入した回数 | 9 100.0 | 4 44.4 | 2 22.2 | 2 22.2 | - - | - - | 1 11.1 | |
| インターネット販売で購入した回数 | 5 100.0 | 2 40.0 | - - | - - | - - | - - | 1 20.0 | 2 40.0 |
| 島内の知人に送ってもらった回数 | 2 100.0 | - - | 1 50.0 | 1 50.0 | - - | - - | - - | |
| 島外の知人に送ってもらった回数 | 9 100.0 | 4 44.4 | 3 33.3 | 1 11.1 | - - | 1 11.1 | - - | |

(3) 一般用医薬品の購入内容

購入した一般用医薬品の内容について、島内・島外との比較で示した。使用する対象者については、島内外で大きな違いはなかった。希望製品であったかとの問いに対しては、島内での希望製品購入がやや低い傾向であった。

表 8 問 4：購入した一般用医薬品は主に誰のために購入しましたか

| | 全 体 | 自 分 が 使 う た め | 家 族 が 使 う た め | 常 備 薬 | 無 回 答 |
|----|--------------|---------------------------------|---------------------------------|-------------|-------------|
| 島内 | 41 100.0 | 24 58.5 | 12 29.3 | 2 4.9 | 3 7.3 |
| 島外 | 114 100.0 | 66 57.9 | 34 29.8 | 7 6.1 | 7 6.1 |

表 9 問 5：島内で購入した一般用医薬品は当初から希望した製品でしたか

| | 全 体 | 希 望 し た 製 品 で あ っ た | 希 望 し た 製 品 で は な か っ た | 無 回 答 |
|----|--------------|--|--|-------------|
| 島内 | 41 100.0 | 30 73.2 | 6 14.6 | 5 12.2 |
| 島外 | 114 100.0 | 94 82.5 | 9 7.9 | 11 9.6 |

表 10 問 5-1：希望した製品でなかった理由

| | 全 体 | 希 望 し た 製 品 が お い て な か っ た | 希 望 し た 製 品 は あ っ た が、 薬 剤 師 が い な い た め に 購 入 で き な か っ た | 店 員 の 勧 め に 従 っ た | そ の 他 | 無 回 答 |
|----|------------|--|--|---|-------------|-------------|
| 島内 | 6 100.0 | 4 66.7 | - - | 2 33.3 | - - | |
| 島外 | 9 100.0 | 1 11.1 | - - | 6 66.7 | - - | 2 22.2 |

(4) 一般用医薬品による副作用経験

一般用医薬品による副作用の経験については、2.7%（6名）が経験ありと回答した。このうちの1名が通信販売によるものであった。

表 1 1 問 8：これまでに一般用医薬品の使用により、副作用の経験はありますか

| 全 体 | あ る | な い | 無 回 答 |
|--------|--------|--------|-------------|
| 226 | 6 | 209 | 11 |
| 100.0 | 2.7 | 92.5 | 4.9 |

表 1 2 問 8-2：副作用が発生した医薬品を購入した所。

| 全 体 | 島内の薬局・ドラッグストアで購入したもの | 島外の薬局・ドラッグストアで購入したもの | 通信販売で購入したもの | インターネット販売で購入したもの | 島内の知人に送ってもらったもの | 島外の知人に送ってもらったもの | その他 |
|--------|----------------------|----------------------|-------------|------------------|-----------------|-----------------|------|
| 6 | - | 3 | 1 | - | - | - | 2 |
| 100.0 | - | 50.0 | 16.7 | - | - | - | 33.3 |

(4) 自由記述

離島における一般用医薬品購入に対する自由意見について、その内容をもとに集計した。

「薬局・薬店が欲しい、薬局から配送できるようにしてほしい」との意見が7名（自由意見を記入したもの111件中6.3%。以下同じ）であった。「医療機関を受診する、医療機関でもらう」との意見は15件（13.5%）、「薬局以外の店舗で販売できるようにしてほしい」との意見は15件（13.5%）であった。

最も多い意見としては、「配置薬」であり32件（28.8%）で、「インターネットや通信販売」を希望するものは17件（15.3%）であり、その他、知人などに頼むなど「助け合い」での対応が5件（4.5%）であった。

4. 結論

平成24年中に一般用医薬品を購入したとする者のうち、インターネットで購入したとするものは、購入者のうちの3.4%、であり、規制もあって、それほど多い割相手はなかった。インターネット、通信販売へのニーズについては、希望するものが全体の15.3%で

あり、むしろ配置薬への要望が 28.8%と多く、一般用医薬品の供給方法についてはインターネット以外の方法も含めて検討することが必要と思われた。

表 1 3 (1) 自由記述：薬局・薬店が欲しい、薬局から配送できるようにしてほしい。

| |
|---|
| 島内にも薬を購入できる所がほしい。 |
| 島内にも薬店があったら良い |
| 店の内に薬局ができたのが、3ヶ月前で、それ以前は、島外でなければ、薬局がなかった。 |
| 離島にも薬局、ドラッグストア等があればいいと思う。 |
| 薬局が欲しい |
| 1)薬局へ注文したら送ってもらえるように薬事法を緩和して下さい。 2)スーパーや、コープなどの事業所で住民が注文したら、要望に答えられるように薬事法の緩和など |
| 今までの質問は実際に島外で買ったことでの事である。 島内では数ヶ月に1回定期的に薬店の社員が来島し各家庭へ保管してある薬等の検査、不足分を補っている現状である。 島内には1人看護師(役場職員)さんが常駐している。仕事を増すかもしれないけど看護師さんに相談して本土の薬店と役場等の関係を密にして輸送できる仕組みにしていきたい。 薬代は看護師さんへ→役場へ→薬店が請求を役場へ 島内にある診療所から薬を販売する |

表 1 3 (2) 自由記述：医療機関を受診する、医療機関でもらう。

| |
|--|
| 今のところ配置薬などでまにあっています。ほとんど診療所を利用させてもらっています。 |
| 特別に必要を感じない。近くに医院があるのですぐ医者に見てもらっている |
| 病院で出してほしい。足がいたいため |
| 病院で処方してもらおう |
| 病院や診療所で診察をしてもらい薬を処方してもらおう。 |
| 医師の指示又は病院か診療所からもらう |
| 薬局から薬品買うことないです 14日に1回診療所にかかっています |
| 病院に行っ診察してもらい薬を貰う |
| 病院の診察の時に薬品供給します |
| 診療所で売ってくれるとありがたい。医者に診てもらわずともよい軽度の病気、けがに対応できる |
| JAの家庭薬で対応している。それ以外は診療所で対応出来ます。 |
| 診療所等で定期的な移動販売 |
| 医院、診療所等で処方してもらっているのも、それほど不自由ではない。 |
| 町の診療車が月に1回～2回集落民の診療を定期的に来て下さっていますが、健康診断の方も、年に1回～2回してほしいです。 |
| 自分で軽いと思った時は家庭常備薬か島を出た時にかぜ薬などは購入してきます 重病の時は病院にいます。対応ということですが薬害のこともありますので病院と連携した薬局がほしいと思います。 |

表 1 3 (3) 自由記述：薬局以外の店舗。

| |
|--|
| <p>私は購入した事はありませんが離島の人々はテレビ等の宣伝で買われている様です。グルコサミン等。 島内の雑貨店で外用薬等種類を多く揃えてほしいと思います。例えば虫刺され、筋肉痛の貼薬等</p> |
| <p>最近島のスーパーのテナントとして販売するようになり成りました。作業上小さなキズ等の薬、体調予防薬等購入出来るようになり助かります。(数年前迄有った薬局店が無くなってからの数年不便でした)</p> |
| <p>島内に薬局やドラッグストアが存在しないので島外に出かけなければ入手できない。経済的な負担も大きい。島内の雑貨店でも一般用医薬品が販売できるようにしてほしい。</p> |
| <p>島内に薬局はないので一般の商店で購入出来れば良いと思う。特にパソコンインターネット等が出来ない人などのため</p> |
| <p>全国農業協同組合連合会の一般用医薬品は望ましいと思います。</p> |
| <p>最近スーパーの中に薬局が設けられたので、余り不自由は感じなくなった</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別の物質を含んでいない、目薬、胃薬、頭痛薬等は、大工センターやスーパーでも条件を付けずに販売可能にすべきだと思う。 ・注意が必要な薬は購入前に認識出来るように店頭に表示すればいい(購入希望の薬の名前をクリックすると注意事項が表示される等) ・あまり規制を強くすると薬剤師及びその団体の保護の為、又は圧力を掛けているように思える。 |
| <p>人口が少ないから薬局はむずかしいと思う。一般商店で多品種販売できたらよい。 (私の病気に対する対応) 診療所で初期治療をしている。(風邪等)</p> |
| <p>薬局、ドラッグストアがない。一般商店での販売があれば良い</p> |
| <p>置き薬は便利なのですが担当者によって個人情報漏らす人がいて解約を申しでもなかなか応じてもらえない もっとモラルをきちんとしていると助かる時もあると思います。</p> |
| <p>郵便局で購入できるようになればいいと思う。(行ってすぐに購入できる)</p> |
| <p>島内の一般の小売店で購入出来れば良いと思う。</p> |
| <p>島内に店舗があれば助かる</p> |
| <p>長年あった薬局がなくなり、困っていたところ、スーパーの一角に最近薬局ができ、大変ありがたい。 離島で高齢者が多いため、とても役に立っていると思います。小さい島ではあるが、ずっとなくならずにいてほしいと思います。</p> |
| <p>一般小売店買入可能にしてほしい</p> |

表 1 3 (4) 自由記述：配置薬。

| |
|--|
| 置き薬 |
| 軽度の疾病予防薬については、富山さんやその他の年に一回の入れつけ薬があるためそれを利用して、あまりその不自由さはない。 |
| 置き薬。 薬剤師に届けてもらう。 |
| 置き薬などいいと思います。 |
| ・島外からの「くみあい」等の家庭用置き薬を利用して間に合わせている ・島内の診療所の処方箋により薬をもらって対処している。 |
| 世代別に。例えばインターネットが使える世代には、インターネット販売、高齢世代には、社会福祉協議会他との連携など、訪問販売的な形でもとらないと、年寄には、必要なものを供給できないのでは。 |
| 置き薬 |
| 島内の方は、置き薬を置いている方が多いと思います。城山薬品のような常備薬を。年に何回か担当者がみえて薬の補充などして下さるようです。 |
| 置き薬という方法が望ましいが離島だと巡回に来るのも難しい。 症状が軽いうちに医師の診察を受ける |
| 私は病院でお医者さんにみてもらい薬は頂いているので困ったことは一度もありませんでした。でもこの先どうなるかは分かりませんが、でも私たちの島の集落には農協の置き薬を各家庭におかしてもらっています。でも私だけは一度も利用はしていません。年に3、4回とりかえはしているようです。 |
| この島では昔から入れ薬と呼ばれている対応があります。薬屋さんが一軒に固定の薬箱を置いておいて、2～3ヶ月に1回、薬を入れていくやり方です。入れておいた薬がなくなったら、入れ替えていく方法です。この島にはコンビニもないし、薬局もないし、大変ですよ。このように、入れ薬しかないのでは？ |
| 島の方はほとんど置き薬が多い |
| 自宅に置き薬があり、使った分だけ支払いをします。ドラッグストア等ないので、いざという時、とても助かっています。 |
| 過去において家族の構成人員の多い時代は、富山県から家庭常備薬としてかぜ薬、腹薬、簡単な傷薬等毎年1回薬の入れ替えをし、その時に使用していた薬の代金を支払っていたが、人口の減少により利用者も少なくなり、現在ではそのような薬の入れ替えもなくなっているようである。 本町は川内市と合併したが合併前は1村1集落で独立の診療所が村の中央にあり、近くに診療所があり薬局、薬店がないのにあまり不自由を感じていないようである。 |
| 家庭用配置薬、通販等による規制の解除を望む 年配者の方でも安心して購入できるシステムを開発してほしい |
| 現在戸数は40戸です。島内には薬局がないため、農協、富士薬品、荒垣薬品の3業者が置き薬をおき、3ヶ月に1回巡回しています。 |
| ・現在利用している置き薬 ・インターネット販売 |
| 個々の家庭に薬局会社が置き薬を実施してほしい |
| 薬局が廃業した後は知人に島外で買って来てもらっていましたが城山薬品の置き薬を最近まで使っていました。この置き薬が便利でした。 |

表 1 3 (4) 自由記述：配置薬（続き）。

| |
|---|
| <p>今年11月から島内のお店で購入可能となったが、老人等バス以外の交通手段が無く入手困難な時が多く、もっと自由に一般小売店で購入できれば簡易な薬等（風邪薬等）は、有難く感じるのではと思える。訪問販売等が有ればと思える</p> |
| <p>置き薬で充分間に合うので不自由を感じない</p> |
| <p>訪問販売が必要</p> |
| <p>当島内には新旧の配置薬の業者が老人世帯に置いていって使用した分の料金を支払っています。5年前高齢の為廃業し島外に出て行った薬局がなくなって不便な方もおられました。最近スーパーの一角に薬品コーナーができて助かっております</p> |
| <p>鹿児島の甑島（上甑島、中甑）、離島のために昔は薬局が1件ありましたが薬は高い（金額）のでいろいろ買うと家計も大変でした。今はそこは閉店し、新しく最近小さなスーパーに薬コーナー（薬局）ができ、少し安心しました。</p> <p>私の家は、富山の薬屋が毎年1回泊まりこみで周るので、その時にいろいろな薬を置いてもらってます。今でも。</p> <p>昔から甑島列島とか周っているみたいです。赤字にならないのか？副作用もないし、毎年交換してくれるので急な時は大変助かっています。</p> |
| <p>いざとなりますと島に診療所が有ります</p> |
| <p>また、配置薬品が常に置いて有りますので常々薬剤師さんが回って下さり大変に助かっています。</p> |
| <p>※自宅へ訪問する様なことは出来ないでしょうか。離島に住んでいるのでいざという時に不便ですので</p> |
| <p>配置薬</p> <p>わが家でも置いていますが、全く使わないこともありますけど。あれば、便利です。もう少し種類が多いといいかもしれません。</p> |
| <p>置き薬を利用しています</p> |
| <p>定期的な訪問販売</p> |
| <p>置き薬</p> <p>島内には毎月、城山薬品が置き薬をおき使ったものを補充してくれるのもあれば、年一回富山の薬の置き薬もあるので、不自由はしていないと思います。また、病院に早めに行くのが良いと思います。</p> <p>島には昔から富山から来られていた薬売り（置き薬）がいたように思います。</p> <p>現在も置き薬はあります。年に数回巡回に来られています。もちろん希望者のみです。</p> <p>使うことはめったにありませんが、我家でもおいています。</p> |

表 1 3 (5) 自由記述：インターネット・通信販売。

| |
|--|
| <p>インターネット販売が便利だと思います。ですが、ご年配の方々が利用しにくかったり、それ以外の人が利用できても、送料が別に(離島の為)上乗せの料金を請求されたりと、不便な状況です。</p> <p>最近薬品コーナーができてかなり便利ですが、常備薬等をすべて購入できるというわけではないので、やはりインターネットに頼る部分は大きいと思います。</p> |
| <p>離島のため、電話相談による注文などあればと思いますが、届くの日に数がかかるのでむずかしいですね</p> <p>島内に薬局、ドラッグストア等がないので、電話等で一般用医薬品が注文できて送ってもらえるようなことができれば良いと思う。</p> |
| <p>テレビCM等や新聞を見て購入するしかない状態です。</p> |
| <p>電話とか、手紙等での症状である程度の薬は販売できるようにしたら良いのでは。</p> <p>離島の場合、全て病院に行かなければならず、少しの病気がまんしている状態にあり、通信販売も若干認めても良いのではないかと思います。</p> |
| <p>この島での買い物はインターネットを利用するのが一番便利です。ですが、おばあちゃんが欲しがっている「救心(きゅうしん)」は買うことができないので、不便です。</p> |
| <p>置き薬があるため基本的な薬には困らない</p> <p>それ以上の薬が必要であるなら病院へ行く</p> <p>置き薬は好きなのを選べないので通販が出来ればよいが離島へは送料が高額になるのでそれが悩む</p> <p>予防薬としての一般用医薬品の利用は、市民にとって大変有難い。症状が重くなってから病院に通うことになる、時間と費用の負担が大きくなる。安全性の高い、効果のある薬を手軽に購入できるシステムをつくってほしい。(インターネット利用、その場合、高齢者でも簡単にできるように)</p> |
| <p>やはりテレビ、新聞の広告やチラシ等での通信販売が適当と思う</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット販売 ・購入代行 ・定期的な島内への販売に来る |
| <p>インターネット等で買えたらいいのですが、薬品はむずかしいですね</p> |
| <p>通販、インターネット販売による購入</p> |
| <p>インターネットによる購入ができればいい。</p> |
| <p>離島においては人口減少は深刻な問題で薬局、ドラッグストア等の出店は全く考えられる状況ではありません。インターネット販売等の枠の拡大を切に望んでいます。</p> <p>近くの店、通販で買えればうれしい。</p> <p>今は私も50代 船にのって島外へ出た時に買いますが、年をとっていくと島外へ行く事も少なくなると思います。 私が買う薬は頭痛薬、便秘薬、かぜ薬、強力わかもと、と決っています。</p> <p>今のところは自分で判断して病院に行くべきと思えば病院へ行って処方してもらっています。 離島の為、子どもは15才までしか家にいません。(高校がないので) 子どもが小さい頃は置き薬屋さんが何ヶ月かに1回家に来て下さって助かりました。 ドラッグストア等の薬より値段は高いですが、安心して飲ませてたように思います。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・注文の窓口のお店を島内に作ってほしい。 ・インターネットでの購入。 |
| <p>インターネットや電話を利用した、通信販売でも薬剤師としっかり話をしておけばいいと思います。</p> |

表 1 3 (6) 自由記述：助け合い、その他。

| |
|---|
| 近所同士で助け合う。声をかけあう。 |
| ・親族に願います。 ・役場に電話し相談すれば良い。 |
| 島外にいる姉妹に頼む |
| 知人に頼むしか方法がない |
| 診療所で購入するしか方法がない島では、友人知人に頼んでみることもあると思います。一般用医薬品も診療所で購入できるようにしてほしいです。 |
| 島の方は、病気等の場合、島内の診療所、医院でかかりつけで診てもらいます。薬も処方してくれます。大病の場合は島外の病院を紹介してもらい入院や通院をします。 一般医薬品は、地元のスーパーや、配置薬を備えてる家庭もあります、種類が限られている為に、病気に適した薬がない事があります。 |
| 週二回診療所が開くだけの島なので、入手困難な方はとても大変だと思います。どのような方法があるのか具体的に思いつきませんがぜひ安全安心な入手方法ができるよう改善してほしいです。 |
| 国からの補助 |
| 医薬品は定価で販売しておりますが、もっとサービスして販売ができると思います。一般の商品は定価よりも格安で販売したり、商品によっては半額以下で販売しているものもあります。医薬品だけどうして定価で売っているか、よく指導してもらいたい。 |
| 風邪のひき初めや初歩的な薬なので、病院に行かなくても良い時の薬を買っている。 |
| 島の方でも購入できたらいいが、今はムリ。島外に購入しにいけないといけないので大変だ。 |
| 現在2人共健康で病院とか行かないので薬局で買うのは夏場の虫にさされたときのかゆみ止めと、飲み過ぎた時の胃腸薬 島外に出かけたときに買っています。 |
| 急に必要な時のために島内で買うことができたらいいと思います。 |
| 40年前から50年前は集落のお店で買う事が出来ました。かぜ薬、胃薬等処方にも簡単なものです。当池地集落は41戸64名の方々が生活しております。その68%が老人です。せめてかぜ薬くらいは船に乗って1日かけてまちに出て買わなくても良い方法を望みます。幸いあずけ薬が有りますのでそれを利用しています。 |
| 月に1度程度に訪問してもらおうと助かる。郵便局に一般用医薬品があると良い |
| 家庭常備薬に頼っていたが、今年になってスーパーに薬局コーナーができ薬剤師の指導の元、購入した |
| 離島に一般用医薬品を購入できる場所がなく(例えば鎮痛剤や船酔い止め等)手に入らず大変困ってました。数ヶ月前、よく買いたいものをするストア内に薬局コーナーができたので心強く感じています。小さい地元の店でも簡単な薬は置けるようにしてほしいと思います。 |
| 薬局等の経営に対し、補助する必要があると思う。人口が少ないので、経営が苦しく4年前一つの薬局が閉店した。 |
| 常に必要な薬は手元に置いておく必要があると思いました。 |
| 家庭常備薬をもっと十二分に用意出来るように |
| 離島といっても近くの町まで船で40分もあれば行ける様になったので困難に感じなくなった。 |
| 薬局、ドラッグストアのない島嶼部においても購入できるような環境を整備してほしい。 |
| 常備薬の販売を定期的に行ってほしい。 |
| 症状の症例に対する一般医薬品等の情報が乏しいので適切なコンサルタントが得られれば有難いのですが。 |
| 全てが許可制度で有る以上その壁を取り去ることはむずかしいかと思いますが、低くすることは可能なのではないのでしょうか。私の居住地区でも一時期、無薬局状態になりました。古くから有った薬局が過疎化と新法の関係で閉店してしまったのです。最近になって又新しい薬局がオープンしてくれましたので助かっていますが、大変だと思います。半分ボランティアです。 |

離島にお住まいの方への一般用医薬品購入状況調査

平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金

「OTC 医薬品に関わる専門家教育と供給等に関する調査研究事業」

お願い

住民の方々が一般用医薬品の購入をどのように購入をしているのか、また、販売方法等についてどのようなお考えをお持ちかを把握するために、厚生労働省の研究費により調査を行っています。この調査の背景については、2 ページ目に詳しく記載しています。

お手数をおかけしますが、ご回答をご記入の上、返信用の封筒にて返送下さいますようお願いいたします。

本アンケートは、住民台帳から、ランダムに抽出し、島嶼部にお住まいの方にお送りしています。宛名のご本人に関わらず、ご家族の方のどなたがご記入いただいても構いません。

アンケートにお答えいただいた内容は無記名で集計され、個人が特定されることはありません。また、本アンケートにご回答いただくことでご迷惑をおかけすることも一切ありません。

お手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。

調査実施者と責任者

名城大学薬学部 臨床経済学研究室

教授 坂 卷 弘 之

〒468-8503 名古屋市天白区八事山 150

【本調査についての照会先】

TEL 052-561-1256

FAX 052-561-1254

(月曜日～金曜日 10:00～18:00)